

天沼中だより

令和3年9月28日
杉並区立天沼中学校
東京都杉並区本天沼3-10-20
☎ 3390-0161



天沼中 HP の QR コードです。
不定期更新の天中日記が見られます↑

コロナの今、地域との「つながり」を考える

～中学生は地域とどうつながっている？～

令和3年（2021年）9月1日付の杉並区社会福祉協議会の広報誌「すぎなみ社協」に掲載された記事を一部転載します。全文をお読みになりたい方は右のQRコードを読み取ってください。



すぎなみ社協の許可を得て掲載しています

荻窪・弁天池公園で10年以上続く天沼尚和会主催のラジオ体操。ここには、スタッフが自然体で活躍できる場や、雨でも参加者が集まりたくなるような魅力があります。今回は会長の鹿野修二さん、野沢暁子さん、木村励子さん、清水久子さんにお話を伺いました。

——ラジオ体操のはじまりから今まで——

野澤：天沼弁天池公園ができるから、「ここでラジオ体操をやってほしい」という要望があつて、スタートしました。

清水：皆さん、本当に楽しみにしてくれています。

野沢：「長寿応援ポイント」事業にも参加しています。

鹿野：この事業で引き換えた商品券を町会に寄付してくださる方もおり、スピーカーを購入するなど運営に役立てています。

清水：近づいて話したがる参加者に離れて話すようお願いしたり、近隣の方に感染症対策について説明して理解していただいたり。そうした対応は大変でしたね。

——仕事は自分で見つける——

鹿野：朝は必ず公園を清掃していますが、何をやるかは各人が自主的に決めています。

野沢：ゴミを拾ってくれる方、ベンチを拭いてくれる方。お願いしたことがないんです。

木村：公園を「使わせていただいている」という気持ちですね。

鹿野：スタッフも参加者も、基本的に負担感、使命感を持たない。ただ集まり、終わったらそのまま解散。コミュニティを作るとか友達になるとか、好きになさってください、というスタンスです。

——地域のつながりの場——

鹿野：ラジオ体操より人と会うことを大事にする方もいます。情報交換の場でもあるんです。

木村：一人暮らしの老人が多い地域ですからね。そういう方への面倒見が本当にいいですよね。すごくきめ細やかに面倒を見てくれる。

鹿野：町会の存在を知ってもらい、いろんな世代の人がその人なりのタイミングで負担感なく町会につながるといいですよね。いつかつながるときに「町会ってこういうもんだったな」と思い出してもらえたなら。そんな思いでやっています。



エコキャップ回収活動との不思議なつながり・・・

少し前にこんな話を耳にしました。

弁天池公園のラジオ体操の輪の中で、天沼中の「エコキャップ回収活動」のことが話題になり、集まった地域の方々が「天中の活動」に協力しようとペットボトルのキャップを持ち寄ってくださるようになったという話です。地域の輪と天中がつながっている、と実感した瞬間でした。

コロナ禍で、生徒会主催の地域ボランティア活動であるエコキャップ回収ができなくなつて1年半になります。今では天沼スマイル委員会（地教推）の大人の方が地域を回ってくださっています。沓掛小、天沼小の皆さんも集めたキャップを月に1回程度届けてくれています。生徒会役員会は、コンテナがいっぱいになつたら整理して業者さんに引き取りに来ていただく活動をしています。今後、この地域とつながった活動をどうしていけばいいか、エコキャップ回収に天沼中生徒会が今後どのように取り組んでいくのか、生徒の皆さんも考えてみてください。



コンテナ前で袋詰め作業中



1年情報モラル教室

9月8日



例年お願いしているe-ネットキャラバンの方にご講演をいただきました。夏休みの宿題として「SNS家庭ルール」を話し合うようお願いして、学年だよりでもご紹介しています。保護者の方にはコロナ禍のため、たくさんはおいでいただけませんでしたが、いくつかご感想をいただきましたので掲載します。

- ◆親が伝えてもなかなか心に響かないんですが、講師の方から教えていただけたので良かったです。子どもたちの携帯普及率が高くてとてもびっくりしました。会ったことない人とメッセージのやりとりをしている子が何人かいてびっくりしました。親として管理をちゃんとしなくてはと思いました。
- ◆スマホの保有率の高さに驚きました。ツールの使い方による「つい」「うっかり」の先にトラブルが潜んでいると感じました。
- ◆普段見ることのできない授業の様子を見られて良かった。インターネットの安全な使い方の大切さが伝わりました。

★ ★ ★ 文字だけで伝わらないのがSNS
顧見せて【そのままじゃインターネットに飼われてる
(一年生徒作品)

リモート生徒会役員選挙9/12

水泳指導終了9/15



「2学期が始まると新型コロナウイルスの感染

が爆発する!」「学校は大丈夫か?」・・・8月末に始まった2学期当初、そんなご心配の声が保護者の方、地域の方から少し聞こえてきました。デルタ株の広がりにともない、学校も「絶対大丈夫」「絶対安心」

が存在しないという認識を高めつつ、可能な限り通常の教育活動に近い形で、生徒が充実した教育と充実した2学期を始められるよう準備をしました。生徒の皆さんも、目の前にあることに対し、どうすれば、感染を予防しながら「学校生活」を楽しく過ごせるのか、考えてください。

生徒会役員選挙もリモートで実施、放送を使った選挙運動などたいへんスムーズでした。世の中には「プールが心配」という風聞があったからか、「プールサイドでのノーマスクが心配」「水の中での感染は?」と生徒の中でも学年で1~2名、不安な声がありました。学校では別途お知らせしたとおり、教育課程上必要最小限の時数を確保して行うこととしました。水に入る前にマスクをゴミ袋に捨て、上がったら新しいマスクを着用してプールサイドのノーマスクを回避、さらに「黙って動く」を徹底しました。ほとんどの生徒がしっかり授業に参加してくれました。生徒の皆さんに感謝です。



防災教育の日9/18 1年生「防災講演会」

天沼中学校における震災救援所訓練は中止となりましたが、防災学習は2年前の形に近づけて実施しました。



1年生は本校のレスキュー隊を指導してくださっている、守真弓先生(防災士 日本災害食学会理事)の講演会に参加しました。レスキュー隊に体験させてくださっていた、災害時の防災食づくりのこと、簡易トイレの組み立てなどを、この日は1年生にご紹介いただきました。

引き渡し訓練9/18 コロナ禍のため、2年以上訓練できなかった引き渡し訓練も行いました。雨天中止とうたってはおりましたが、今訓練をしておかないと実際の災害で生徒の安全を守れないという危機感もあり、小雨なら決行と判断いたしました。当日朝7:00の大雨による警報、その後の予報も雨が降ったりやんだりというものでしたので、保護者の方々には無理をなさないようにとメールを発出しましたが、引き渡しの時刻にちょうど本降りになり、急きょ体育館で待機いただき、教室引取りに変更するなど、臨機応変の対応となりました。雨の中、訓練に138名の保護者の方にご協力いただきました。急な予定の変更により保護者の皆様にはご負担をおかけしいたしましたが、おかげで「予定変更」の伝達系統、放送の不具合等、課題も発見できましたので、今後に役立ててまいります。ありがとうございました。

防災教育の日 9/18 2, 3年生「HUG訓練」

昨年度、守真弓先生の防災に関する講演会を経験している2, 3年生は、2年ぶりの「HUG」訓練（避難所運営ゲーム）を縦割り班で行いました。どんな時でも災害はやってくる。そのとき、中学生は避難所となった天沼中学校をどう運営していくか、ということを机上でシミュレーションするものです。このカードは、地域の町会の方々などの協力で作成されました。2年前までは地域の大人の方に各班に入っていただき、交流しながらゲームを進めていました。

昨年度実施できなかったので、今年初めて取り組む3年生が、見事に各教室を指導し、やってくる避難者の方々の案内先や、次々起きる事件を解決するためにグループで話し合いを進めていきました。



職場体験 9/7~9

コロナ禍のためにこの9月までもっとも苦労が多かったのが2年生の職場体験でした。1学期から準備を進め、「実施」に踏み切るまでに何度も検討を加えました。また、昨年度から改訂した要項（昨年度は実施前に中止が決定）に添っての新しい試みとして、「進路選択・進路学習は保護者との話いかから」という方向性を大切に、体験先の相談、体験先への依頼等、保護者の方と学校との連携で進めました。

そこへ、7～8月、毎日のように感染者増加のニュースです。一度引き受けてくださった体験先も、緊急事態宣言が続くなら、、、と辞退された事業所様もあり、新しく探しなおされたご家庭もありました。事業所様には、半日だけ、1時間だけ、電話インタビューだけでも、という形で最後までご無理をお願いしました。縮小した形であっても、体験はできなくても、「社会人」の方との普段できないふれあいを少しでも持てたことを生徒は実感していました。緊急事態宣言下でも、受け入れてくださった事業所の皆様に感謝申し上げます。保護者の皆様、ご理解とご協力ありがとうございました。



お世話になりました。ご協力ありがとうございました。

(敬称略 順不同)

沓掛小学校 御料理坂ぐち 萩窪郵便局 妙正寺体育館 裕和幼稚園
日産東京販売株式会社萩窪店 セブソイルブン本天沼店 天沼中用務室
八光堂 セブソイルブン天沼通り店 JCC 阿佐ヶ谷整体院 吉川整骨院
東京メトロ萩窪駅 ローソン萩窪駅西南店 OKストア下井草店
寿々木園 済美教育セタ- 西荻図書館 文化堂阿佐谷店 絵本館
KIRA 加圧トレーニング シダ オ たから幼稚園 菊屋楽器店 天沼保育園
美容室白雪 ルフラン萩窪 BOOKSHOP 曲楽 本天沼児童館
上荻保育園 ガイア動物病院 バ-カリ-コムギノホシ下井草
上井草ボーセンタ- ル・クール・ピュー ハバニ Madka 岡田花店
杉並郷土博物館分館 JR 萩窪駅 JA ファーマーズ マーケット萩窪店
さくら整骨院 イナズマカフェ 下井草図書館 毎日新聞社
三宅太聞税理士事務所 横尾工芸 天沼小用務室リソレイズ
シクロオオノ ユニクロ阿佐谷店 天沼児童館 中央図書館
桃井幼稚園 グラース動物病院 美容室ワンネス 三栄建築設計
上荻児童館 文京瀧田歯科医院 棚名屋 日の丸リムジン
セントラル薬局 ピットスター テンダーラビング保育園
パピーナ本天沼保育園 ひまわり幼稚園 エルム動物病院
のはら幼稚園 サンジェルマン萩窪店

2年生は体験発表に向けて「ロイロノート」で報告をまとめています。学芸発表会の展示でも、発表する予定です。



東京オリンピック・パラリンピックが閉幕しました。7年間にわたりてそれぞれの教育機関において、一生に一度かもしれないこの機会を生かした教育に取り組みました。予想もしなかった「新型コロナウイルス」の拡大により1年延期ののち、無観客大会に終わった2020大会ですが、これまでに学校ではオリンピック・パラリンピック教育として、「スポーツ」「ボランティア」「国際理解」「伝統文化理解」「障害者理解」などのテーマでさまざまな教育活動を実施してきました。本校がメインとした「ボランティアマインド」は、コロナ禍の今現在も生徒に受け継がれています。ここに掲載したのは、7年間に天沼中学校に来校いただいたゲストの方々のお名前です。もちろん、もっとたくさんの、地域の方々や協力者の方々の支えがあったことは紙面に書ききれないものがあります。2020 東京大会までの、天中の歴史の一つとして、振り返ります。

【平成27年度】 重点推進校として、「ボランティアマインドの醸成」をテーマに設定

2015(平成27)年 2学期 スペシャルオリンピックス名譽会長 細川佳代子氏 <全校講演会>
車イスバスケットボールシドニーパラリンピック出場 根本慎志氏<全校講演会／車イスバスケ体験>
2016(平成28)年 3学期 元バレーボール日本代表 山本隆弘氏 <全校講演会／実技指導>
元競泳日本代表 萩原智子氏<全校講演会>

【平成28年度】 重点推進校として、「アスリートのことだま百選」を生徒作品で編集

2016(平成28)年 福祉体験講座(視覚障害、高齢者、聴覚障害)
2017(平成29)年 サッカー選手 日テレベレーザ所属 なでしこジャパン
　　糸木結花選手(本校卒業生) 長谷川唯選手<全校講演会／実技指導>
2017(平成29)年 競泳選手 北京・ロンドン・リオデジャネイロ パラリンピック出場
　　メダリスト 木村敬一選手 講演会 **※東京2020金メダリスト**



パラリンピック競泳
木村敬一選手



本校卒業生 糸木結花選手
(OL レイン<米>所属)



【平成30年度】

2018(平成30)年 「走り方改革」授業
陸上競技選手 猿山力也氏 <保健体育ゲストティーチャーとして実技指導>
2019(平成31)年 サッカー選手 日テレベレーザ所属 なでしこジャパン
　　糸木結花選手(本校卒業生)<講演会 実技指導>

【平成31年度】 オリンピックにて全校でのラグビー観戦が決定

2019(平成31・令和元)年 10月15日 ラグビー選手 サントリーサンゴリアス 元日本代表
中野駿太選手 祝原涼介選手 <全校講演会／実技指導>
2019(平成31)年 サッカー選手 日テレベレーザ所属 なでしこジャパン
　　糸木結花選手(本校卒業生)<全校講演会 実技指導>

【令和2年度】

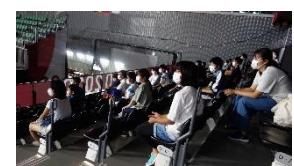
2021(令和3)年 北京・リオデジャネイロオリンピック出場 レスリングフリースタイル
高谷惣亮選手 <全校講演会(リモート含む)／交流会> **※東京2020オリンピック出場**



レスリング 高谷惣亮選手

【令和3年度】

2021年8月29日 7月に予定していたオリンピックラグビー観戦予定が中止となり、その後、区が希望者を募ってパラリンピックを観戦する形となる。本校から28名参加し、「車イスバスケットボール」を観戦。



希望者のみのパラリンピック観戦を終え、生徒は「ボランティアの方が笑顔で迎えてくれたのがうれしかった。」と口ぐちに言っていました。アスリートだけではなく、アスリートや大会を支える力などに注目、この7年間にわたり、天沼中ではボランティアマインドを大切にしてきました。今でも、レスキュー隊への応募は全校生徒の3割～4割、地域ボランティア部への登録は8割以上を継続しています。そのほか、「もったいない大作戦」「世界ともだちプロジェクト」などの教育活動は、生徒会、常任委員会や学年、学級で主体的に取り組むことができました。

7年間の教育活動は、最後の2年間のコロナ禍の中で学んだことも合わせ、在校生がこれから生きていくうえで、力となる経験であった信じています。



車イスバスケ 観戦中
武蔵野の森総合スポーツプラザ